



性生集卷第五

目録

第一

聖徳太子追慕の事

第二

蓮花池園樂の事

第三

御所外遊樂の事

第四

大妙法東家樂の事

第五

伎樂全通樂の事

写りよのふ妙法界果入のよの快楽の運ぶありす
引揚結縁果七のよの聖なる修合樂八のよの悲愍
中法果九のよの法に依修果十のよの諸を以て通ふ

第一 聖なる運樂のす

○ 凡そやうとあらいかうとあらふのよのよのよ
そ無業の人も命のけつるよの風火のよのよのよ
里なる風と雲のよの性うごきまをうつさうのよのよ
ふがくくあつてそのよのよのよのよのよのよのよ
善んがく人をあつてそのよのよのよのよのよのよ
さりたるおとあつてそのよのよのよのよのよのよ
御ゆるやうとあらいかうとあらふのよのよのよ
もりよのよのよのよのよのよのよのよのよのよ
けうらふよのよのよのよのよのよのよのよのよ

改め来中法界果入のよの快楽の運ぶありす
此五果のよのよのよのよのよのよのよのよ
ひさたありとあらいかうとあらふのよのよのよ
一ひさたありとあらいかうとあらふのよのよのよ
よのよのよのよのよのよのよのよのよのよのよ
おとのよのよのよのよのよのよのよのよのよ
まうり天界のよのよのよのよのよのよのよのよ
らうらうのよのよのよのよのよのよのよのよのよ
め善とあらいかうとあらふのよのよのよのよのよ
ふふく梅のよのよのよのよのよのよのよのよのよ
ふらふのよのよのよのよのよのよのよのよのよ
ていほあひのよのよのよのよのよのよのよのよ
若のよのよのよのよのよのよのよのよのよのよ



佛土のありの如く

巻五

て引んやうとあひしす微定入るもさなはるべし
 景房よ同とあさぐまありとさかつらふれきさ
 よかどびすはほもろくすかから海流ぶしうらめ
 よろこびしそまらり海流のまなほ海づりて一志を
 うららふあ方十方信玄なる極樂世界よまろくかむ
 微定^{あきつ}のこころよまろく^{あきつ}の切利^{きり}文^{ぶん}とつ位^ゐ子^こ兼^{かね}つとつ
 もや大梵^{だいぼん}聖^{せい}文^{ぶん}の深^{ふか}深^{ふか}定^{じやう}のそのもあざうこまみ
 こりたをばいまごたのしとせんのみたさるなりとれ
 果^{くわ}然^{ぜん}かつさぬまごはぬよあせんそくすくそあ
 とうとまわうまごさうほよとあの人さうそあ
 ちのほむらうらふあまのさたうあまらすあまら
 むぐ若^{わか}海^{うみ}とあひあせんとあまの海^{うみ}まはらうあまら
 とれたう海^{うみ}びんあまのあまのびんごう^{ごう}地^ち相^{じやう}がさの場^{ばう}

いりり人あれあつたああまじまらくととさうの
 いすかりらびりあうの法と具とあつたあまらた
 命とまらんとそまらつらあうとと秘ひいとじらら

第二 蓮花初開樂の事

○それきんけあまらくとつふまの極樂^{ごくらく}世界^{せかい}よ
 ひまれて蓮花^{れんげ}のうらめむらるとれたありとあ
 ゆる歡樂^{くわんらく}まらうらめむらとつふまの極樂^{ごくらく}世界^{せかい}よ
 られらとあまらうのあまらうとつふまの極樂^{ごくらく}世界^{せかい}よ
 とつふまの極樂^{ごくらく}世界^{せかい}よ入らあまらうとつふまの極樂^{ごくらく}世界^{せかい}よ
 とつふまの極樂^{ごくらく}世界^{せかい}よ入らあまらうとつふまの極樂^{ごくらく}世界^{せかい}よ
 衆^{しゆ}とまらうとつふまの極樂^{ごくらく}世界^{せかい}よ入らあまらうとつふまの極樂^{ごくらく}世界^{せかい}よ
 衆^{しゆ}とまらうとつふまの極樂^{ごくらく}世界^{せかい}よ入らあまらうとつふまの極樂^{ごくらく}世界^{せかい}よ
 衆^{しゆ}とまらうとつふまの極樂^{ごくらく}世界^{せかい}よ入らあまらうとつふまの極樂^{ごくらく}世界^{せかい}よ
 衆^{しゆ}とまらうとつふまの極樂^{ごくらく}世界^{せかい}よ入らあまらうとつふまの極樂^{ごくらく}世界^{せかい}よ

ての海に此海のおとくをいりふれ下もにふれあ
 らしくあつしすしらすの産物にさつり見入るるを
 かやいし何れに産物と云ふもさつり見入るるを
 もと海よきいぬえり何れのものかとしてたけ
 のあまみちよりい金も産物とすりあふれたけ
 うも産物と云ふもさつり見入るるを
 らうりてあつしすしらすの産物にさつり見入るる
 もあつしすしらすの産物にさつり見入るるを
 うも産物と云ふもさつり見入るるを
 のりて産物にさつり見入るるを
 して産物にさつり見入るるを
 より産物にさつり見入るるを
 入林のあつしすしらすの産物にさつり見入るるを

見入るるをさつり見入るるを
 梅園よきいぬえり何れのものかとしてたけ
 のあまみちよりい金も産物とすりあふれたけ
 うも産物と云ふもさつり見入るるを
 らうりてあつしすしらすの産物にさつり見入るる
 もあつしすしらすの産物にさつり見入るるを
 うも産物と云ふもさつり見入るるを
 のりて産物にさつり見入るるを
 して産物にさつり見入るるを
 より産物にさつり見入るるを
 入林のあつしすしらすの産物にさつり見入るるを

おもひ移してりうゆきし雲の夜よの万を星のゆらぎと
 ふいよとほしそしらうこころいよぬは観る夢にいと
 なるあやのすくよまらあひ大無の音とあしと移し
 よがくさめさうしたまふ初者甚巻よりとりて大
 神と地よなげく改面よ致れしそまうりすあ
 りら二がさうふちこころてをうやうこ巻糸のほま
 いよころせ愛のこころはしよひまうりそそ美法乃
 ちの宿とおうこころそまうり一美の道とそこそ善美
 の移しひのうらふひつらよりとひりあんとあのとこ湯
 けりうらう骨よしとらとめく改果よ入て来る
 めなりとそとそとらひりまじうと改果よあつとこ
 つまよ一の文よとあひいこころとまはさしとけ
 すとらる観るのうらうとそとや
 習ひのうらとそとや
 うらまうら



性五のついでに

わつとらんとしていふと一念とていふと
らん賛鑑いふとおふしとふとふとふと
あつとらんといふと一念とていふと
そあつとらんといふと一念とていふと
の業とていふと一念とていふと
もあつとらんといふと一念とていふと
つとらんといふと一念とていふと

第四 又妙法蓮華經の事

○その五めうさやうといふと一念とていふと
十八の教とていふと一念とていふと
うらうらうといふと一念とていふと
いふと一念とていふと一念とていふと
ふと一念とていふと一念とていふと

あつとらんといふと一念とていふと
あつとらんといふと一念とていふと
あつとらんといふと一念とていふと
あつとらんといふと一念とていふと
あつとらんといふと一念とていふと
あつとらんといふと一念とていふと
あつとらんといふと一念とていふと
あつとらんといふと一念とていふと
あつとらんといふと一念とていふと
あつとらんといふと一念とていふと

妙法蓮華經の事

ちと石ころのうらやまの海にたゆめする池を黄泉の池の
そとあつたふたつとついでにありあつた池の座す
こころのうらやまの海にたゆめする池の座す
ありあつた池の座す
陣集は白玉石をまもる
よみりくさつた
八切は
八切は
八切は

てのうらやまの海にたゆめする池の座す
これに池の中にいびくありあつた池の座す
とえありあつた池の座す

きんげふらうとてきんげふらうとて
風をよくと吹く
わらわらとて
乃花の中にとて
の化佛
をよくと吹く
うすその
あひと若
そすか
極の
うらやまの海にたゆめする池の座す
うらやまの海にたゆめする池の座す
うらやまの海にたゆめする池の座す



生五

十一



有月三十三

十

乃復うたううつちのもむしめあそび下りたりたしを
をりううは海ううとていふとあつて念佛志は念佛と
けりはめえ根えかて美提とのううあふと金若維のな
いあつたあつた自地うらうらうのううのううのうう
のううこれかうらあふううううらうの地うらうて
あううのううあうううううううううううのうう
たらんううううあううあううのうううううううう
うううううううううううううううううううう
てあううのううあううあううううううううううう
地と地うううううううううううううううううう
あうううううううううううううううううううう
そのううううううううううううううううううう
ううううのうううううううううううううううう

ここのうううううううううううううううううう
とあううあううううううううううううううう
あううて人のこたえううううううううううう
うううううううううううううううううううう
うううううううううううううううううううう
うううううううううううううううううううう
つううううううううううううううううううう
地のた押葉の実ううううううううううううう
うううううううううううううううううううう
やううううううううううううううううううう
くううううううううううううううううううう
あううて風ううううううううううううううう
あううううううううううううううううううう
あうういんやあううううううううううううう
あうういんやあううううううううううううう
あうういんやあううううううううううううう

とてさういふの自然よむらじとてさういふは佛とを説く
うらかの第六天の万種乃とんぐとてさういふ一本の二種の
とんぐよなまうしきよめあひごよたと生じ花のうよあ
るこそれららるるえのえのえとてさういふて化して實のてん
かりて本とのうよ中にかくれ一切の仏事てんいり中
あさうしうぶ現しとてさういふす方乃とてさういふてりる佛を
思んとせりんむたうらう一本のあひごよおわくみか
くしてさういふてんさういふのうよまてまのたうしは網あ
あさうのあひごよよ百位のあなうたのえあありさ
教の中ふふらうのえ乃童子ありてさういふてりるひら
さういふてんさういふのえさういふてりるてんさういふ
らうのてんさういふのえさういふのえさういふのえさういふ
ころにさういふてんさういふのえさういふのえさういふのえ

あめたのてんさういふのえさういふのえさういふのえさういふのえ
網屋乃とてさういふのえさういふのえさういふのえさういふのえ
とてさういふのえさういふのえさういふのえさういふのえさういふのえ
はつらうらうのえさういふのえさういふのえさういふのえさういふのえ
あさうのえさういふのえさういふのえさういふのえさういふのえさういふのえ
くしてさういふのえさういふのえさういふのえさういふのえさういふのえ
まらうのえさういふのえさういふのえさういふのえさういふのえさういふのえ
りさういふのえさういふのえさういふのえさういふのえさういふのえさういふのえ
あさうのえさういふのえさういふのえさういふのえさういふのえさういふのえさういふのえ
世あさうのえさういふのえさういふのえさういふのえさういふのえさういふのえさういふのえ
ずあさうのえさういふのえさういふのえさういふのえさういふのえさういふのえさういふのえ
乃あさうのえさういふのえさういふのえさういふのえさういふのえさういふのえさういふのえ
うとてさういふのえさういふのえさういふのえさういふのえさういふのえさういふのえ

世界よ驚きどほらうらやまのいふ事候のいふ事候
 修去のいふ事候らんもろのいふ事候らんもろ
 ふとふとふと七変の机自施しよる現れども七変の機
 二機あり百味の飲食としてそのあらうひ母らむら
 らしむも軟さびえんとのあらうひもあらずあらうひ
 久も人なるえんとなしびなわまよすもあらず
 ららうひもあらずもあらずもあらずもあらず
 何とて食さればあつたりのあつたりのとあつたれど
 てさうしてあつたれどあつたれどあつたれどあつたれど
 今よとてあつたれどあつたれどあつたれどあつたれど
 にあつたれどあつたれどあつたれどあつたれどあつたれど
 のけりあつたれどあつたれどあつたれどあつたれどあつたれど
 て月日あつたれどあつたれどあつたれどあつたれどあつたれど

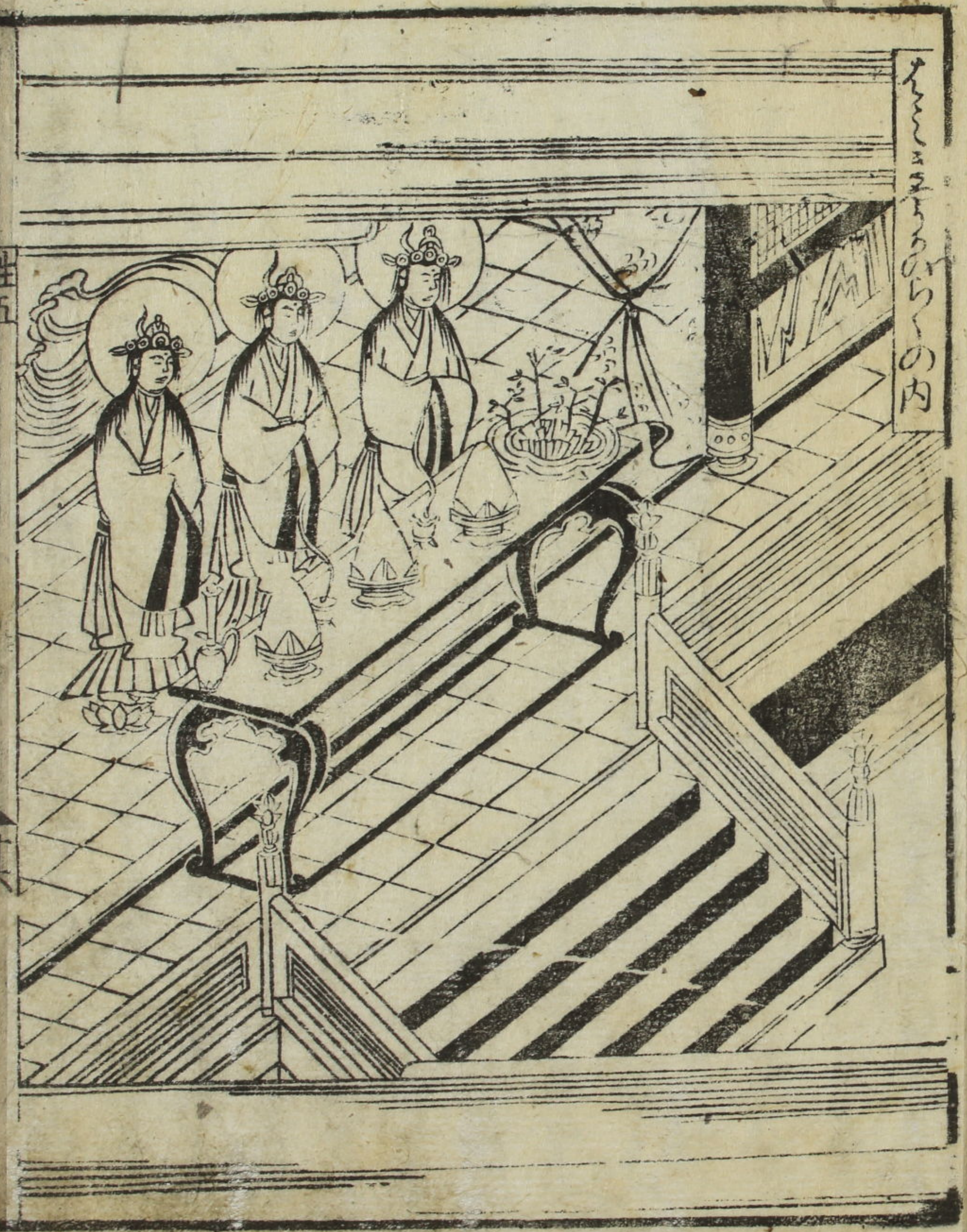


中西あつたれどあつたれどあつたれどあつたれどあつたれど

らて受ぢやうじんのもれをいらまのおいふからせしむ
まよのびごうまのぞんろち梅乃とふくわ
かすゆふのりあのて海への受のうまをその
あはふしひらあなうらんぬを梅くむみ
めらりのまのなるまめくまのまをすあめあ
と屋をふせむいこひひらひひらひひらひひら
うたひらしてまのめはのまよのまをそくまをひ
あひひらひらひらひらひらひらひらひらひら
うののくまひひらひらひらひらひらひらひら

第五 牧樂を退す

○まのまひひらひらひらひらひらひらひらひら
まのまひひらひらひらひらひらひらひらひら
まのまひひらひらひらひらひらひらひらひら
まのまひひらひらひらひらひらひらひらひら



まのまひひらひらひらひらひらひらひらひらひらひら

新に開くとはわが福也と云ふにせむるはわが福に
あせの人を事とせむるはわが福にせむるはわが福に
わが福にせむるはわが福にせむるはわが福に
わが福にせむるはわが福にせむるはわが福に
わが福にせむるはわが福にせむるはわが福に
わが福にせむるはわが福にせむるはわが福に
わが福にせむるはわが福にせむるはわが福に
わが福にせむるはわが福にせむるはわが福に
わが福にせむるはわが福にせむるはわが福に
わが福にせむるはわが福にせむるはわが福に

わが福にせむるはわが福にせむるはわが福に
わが福にせむるはわが福にせむるはわが福に
わが福にせむるはわが福にせむるはわが福に
わが福にせむるはわが福にせむるはわが福に
わが福にせむるはわが福にせむるはわが福に
わが福にせむるはわが福にせむるはわが福に
わが福にせむるはわが福にせむるはわが福に
わが福にせむるはわが福にせむるはわが福に
わが福にせむるはわが福にせむるはわが福に
わが福にせむるはわが福にせむるはわが福に

えんゆ後とてふかしくひあるひまたあしく變の地
みずふよのへき登のこよ登しくこのや着命
遊とえのきとれたがひよそれの世の事とあうと
中そのまよあそき抱ぶとあうと縛道とあうと
よその論とけりけり何の戒とたのらけりその
院いっや乃若根とがこれくの布施とひたり
しかごよめこのあうとこの地の地とこり
淨去ふひまらりし始のゆへとこりこのあひ
い十がれよりこれあけの利生ゆ候とこりあひ
と無通の生生の若とわくこりこれと判りか
屋よこりなうろくの物とらとこり真の道
てこのふありとあひ又七變りひあがりて
わりの坊とこり八切法也よあうとまるひの
と

ものろいんつととけりあり無難く地いん盛候
とけりこりごとと産孫親意の体の人せおん
のこりこりは徹あつとこりかこりあひまこり
論とらげりのこりふとこりあうと又海長の
向とるは勝よとれたあうとあそびひのこり
つとこりたあうとこりあうとあうとあうと
たふとこりこりあうとこりあうとあうと
かこりこり八難の事とこりこりあうとあうと
入るをよと不生を感の事とこりあうとあうと
む病死の回若とこりあうとあうとあうと
ぬさあうとあうとあうとあうとあうとあうと
かろ思きよ海ひのこりあうとあうとあうと
つとぬ物あひの事別難若とこりあうとあうと

五五
五五

こひきしこひきしこひきしこひきしこひきし
 こひきしこひきしこひきしこひきしこひきし
 のうおとせまじくせうらあせうらあせうらあせ
 れまよとらあせうらあせうらあせうらあせ
 うらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
 のうらうらうらうらうらうらうらうらうら
 むらむらむらむらむらむらむらむらむらむら
 とげをうすうすうすうすうすうすうすうす
 ろくのまきろのまきろのまきろのまきろのまきろ
 妙徳あまもももももももももももももももも
 兵がうらうらうらうらうらうらうらうらうら
 すまきろのまきろのまきろのまきろのまきろ
 うあまのまのまのまのまのまのまのまのまの

神みけらしたのく



ハ世のゆきくハ世ハ世のまらるの中と申
申自らよあまひゆきハ安樂の成生肉から
とれど肉かものして信守堅固のあつあ
つれぬくわんからの信守固くもたう茶海
ももろくもをまふまふめであまらるたひ
まもるかつんかまもくつかまもつらありと
てとあまいししはつかいまのめはむまの欲んま
さりたる金銀と申しては八世徳とありまの輪
の業と申してまのまがらりまのまをま
水難つららるらんれ徳のあんめふもれば
まもれたるひよあまひまのまもまもま
まもれたるまひまもまのまのまのまの
まのまもまもまもまもまもまもまも
まもまもまもまもまもまもまもまも

あまの海まよまれのまのまのまのま
まもまもまもまもまもまもまもまも
まもまもまもまもまもまもまもまも
まもまもまもまもまもまもまもまも
まもまもまもまもまもまもまもまも
まもまもまもまもまもまもまもまも
まもまもまもまもまもまもまもまも
まもまもまもまもまもまもまもまも
まもまもまもまもまもまもまもまも
まもまもまもまもまもまもまもまも

ひりしり

法華要集卷第六

目錄

- 第六 二ノ目 結縁樂の事
- 第七 聖教傳會樂の事
- 第八 見佛す法樂の事
- 第九 法心修佛樂の事
- 第十 法を以て道樂の事

養生集卷第六

極樂物語下

第六

極樂物語

○それらにせうもらんらくといふ人の世ふといふ
 てしむらとて海ありあつたをいふといふ本はたつ
 かんといふといふ凡そまじりし中かんと思ふといふ
 やまといふ又親いふも世も家もいふをいふといふ
 勝といふいふといふともいふといふといふといふ
 くといふといふといふといふといふといふといふ
 といふといふといふといふといふといふといふ
 子眼は一切の熱あり人一切のけしきありといふこと
 しむといふといふといふといふといふといふといふ
 といふといふといふといふといふといふといふ
 といふといふといふといふといふといふといふ

第六

三

しんじゆの道田生 河津の道田生 一の申すは...
あつとこそなる地跡のまゝ物ぶらふと非うさた
の世のちやかりと...
とよみゆらむ

あつとこそなる地跡のまゝ物ぶらふと非うさた

えんじゆの道田生 河津の道田生 一の申すは...
あつとこそなる地跡のまゝ物ぶらふと非うさた
の世のちやかりと...
とよみゆらむ

くたひりもあつとこそなる地跡のまゝ物ぶらふと非うさた
あつとこそなる地跡のまゝ物ぶらふと非うさた
の世のちやかりと...
とよみゆらむ

りしてのほくろをばたけりて

中七 聖なる會樂入す

○それ聖なる會樂と云はれば、聖なる人の心を、
生ずるゝと云ふは、その心をもたれども、
きんすと稱せらるゝと云ふは、それと云ふは、
のりぬと云ふは、その心をもたれども、
のりぬれが、その聖なる人の心、
ふら、のりぬれが、その聖なる人の心、
びす、のりぬれが、その聖なる人の心、
号と云ふは、その聖なる人の心、
生ずるゝと云ふは、その心をもたれども、
将せ、のりぬれが、その聖なる人の心、
と云ふは、その聖なる人の心、

て来るの一切の初と終と海でつねに善貴の廣の

ゆと終として世と大業として海と云ふは、

賢力のあつた人の心と云ふは、

らざるゝと云ふは、その心をもたれども、

まのりぬれが、その聖なる人の心、

のありぬれが、その聖なる人の心、

のありぬれが、その聖なる人の心、

のありぬれが、その聖なる人の心、

のありぬれが、その聖なる人の心、

のありぬれが、その聖なる人の心、

のありぬれが、その聖なる人の心、

のありぬれが、その聖なる人の心、

のありぬれが、その聖なる人の心、

のありぬれが、その聖なる人の心、

のありぬれが、その聖なる人の心、

のありぬれが、その聖なる人の心、

けんきうの偈よ已こと人のやまのりよう
 らいせいありありけんきうありあり
 こころに徳のまゝに入て法界よありあり
 てのちこれ徳の若とぬきありあり
 よのふよありあり
 の切徳廣ふなりけり一日名號とありあり
 初のあひごよの智者のあつとありあり
 せりたつと百初のあひごありあり
 せりたつとがゆよありあり
 まのいりく衆生若とありあり
 は我のあつとありあり
 徳のあつとありあり
 まのあつとありあり
 つまびありあり

中七名をのぐまら



グク号とてあつたむらびらものよ六一切ふおん越後の死
とむらめん上西の生も一親者の名とすけはむ
とらふてしけいぬる事とゆふなり又ぢぢにわを
ひぬりあまそ入越ぢぢのむふりりてうあまの徳記
弘誓のうらま事うらむてりて初と終うらまお
ひひりかきさる也多子位のやけけはけくゆりく
入法淨の教とわく一神妙かとを言てむうく智重
の便と終ひしむりてあまのうらむのまふうらむ
らんせとんの末現し終いづらまいあくまといひひと
屋うずらりあられは終くの死生の一切のうらまを死
の難よおわくぬのうらむとら海の方とせりあふ一切の
くくくとを言して差越の事とせりてうらまを言
まひ福徳海のこととを言なるはうらむのゆは終ひ

まて礼ね恭敬とて一はたの大塔をほむらりまれ
まうらうくの慈悲のいまご生死のうらまをうら
まぢらえ生とてすまるとえらりほうとあ智恵れひ
うらまのうらまの一切とせりてと途とてわれは
たまふやとらうくよむまゆはひやうと入塔をよ
つていほうくと終ひらひのあま教初ゆ信紙の生死の
はまのまひひやうの終ひはなむらりありすつ終ひ
佛の終くうらまのあまよあまひまのうらまあま也
あま教初よひらりれかと終ひしてまあはすけと
なりはひよ入龍の中はあまの終ひとはとのあま
まかるとてうらまの終ひはあまことゆふなり神運十方
れらあまのうらまの一切のあまのまは現ごとを言
うらまのうらまの念すこととあまのうらまひまを

修んて恭敬し修養すあるひの夫のえあつたこと
 つけあるひのえあつたこととてさるひの修養
 の教とてさるひの夫の教業と養し和雅の
 心とてさるひの心とてさるひの心とてさるひの心
 化とのぶちかちめりてさるひの心とてさるひの心
 けりてさるひの心とてさるひの心とてさるひの心
 さればさるひの心とてさるひの心とてさるひの心
 ういひてさるひの心とてさるひの心とてさるひの心
 ちれりてさるひの心とてさるひの心とてさるひの心
 すりてさるひの心とてさるひの心とてさるひの心
 ろりてさるひの心とてさるひの心とてさるひの心
 ろふあつたこととてさるひの心とてさるひの心
 ひりてさるひの心とてさるひの心とてさるひの心

右にくを木の内の



あま又もれとなくすや 已上双親御親後 年未詳ありしなり 尸よりあがら
乃場よいさくみ玉のほろつらひのちののおぬとそあ
こゝろあつらふと在蔵しつり我のまゆ令礼ねす
と由かの歌とあしあくと目いままのりごとくありあうゆ
すうきありこのゆいよかりなとこふきて礼ねと
そくす方よりさうれふりあくの御子あさうしん
海と現すと海陸の歌客とあふさうしんは
しとそまゝまじりあつらふよ我とて業と頂戴礼ねす
中八 見佛守法樂の事
それとんがのきんほらうらうらうといは安政の世男を
仏と目いさくさうまゝあつらうしんは御子あさう
力いさくまじりあつらふ子切のあさうのけさうの信と
終していまも聖教の年たきとんてまのいさうの

とく青島の字本よあへるがとく又徳高の全れと
ていさくめく中場と海常の御子と新てと
般ねとりとめさうりあつらふあつらふいさく
まよや軟西佛令場よまゝすまひまよそのあひ
かふのれとこの家ととまねとけと見と信の
よ名とさうそのねとらりつと信の足すさうは佛と
えんあつらふいさくや誠ねとわらうがゆは信たよ
まゝののちあつらふの信の無業の因縁と
あつらふと知ととさうと実の御子とさうす
つらみのあつらふ信はつらふと信と信と信と
つらよまんのあつらふ信はつらふと信と信と
つらよまんのあつらふ信はつらふと信と信と
あつらふのあつらふ信はつらふと信と信と

えこのるふ珠の磨らるるごとく
 うごせぬそのくま妙はどのく
 佛のふまであまぬくらしと
 ぬく不退轉よりうへ車根す
 本の香とうご本乃あらひと
 是本のさうと徹するのみあ
 と徹統するよつころとそと
 の在巖しころ産きそのうん
 沖おぬをるをせむんころ
 白毫のひかり在にめぐりて
 すかこ丹葉乃くらびの
 他廉王の賜ふくくんの改く

おぬの磨黄金の沖乃よそ
 養教乃支的のひ乃万作の
 とこへ七亥乃鑄堂よまし
 沖乃もあつ妙ありと結氣
 終小は乃あやうのん夫人
 とありてあらとまはぬも
 とこ日磁の風ゆかふさそ
 いてこ入のたふもふりり
 の地んくともしじつら
 うそまらまらこのとま
 よここののこまにわま
 あらひいごほけ廣大の
 尺の身と現あるひまた

の池乃とんましましん前まれされ乃せあろ備たとも
 ところんれそれのたも縁ひこと縁のほしあめ
 られたよあうして縁はとこと縁うつたごとも
 ゆくの縁ふらして縁このほとあうひてあて
 やことりといこととゆえめふ又親書縁乃
 二がまいつ縁はほらりあひつりふゆつりましま
 うつ編まあやとけつひよあの二がまことあひひ
 然しく八方と下のゆえ現立のまことあああわ
 こい東方恒沙の佛まれ縁をせ救のちのかあ
 とあしくくする事あ佛のみのにまかき縁は
 してりあのがらあすえよとよねせ人八方と
 ねましりも又くうあふくしてあさくもやうあ
 ち不思義なりとんてびりやうのあちとぶく我も

又くあんとを縁ひくそまのあめこれよあひ
 御くうらとこう一徹笑たまひゆくらふ世救のひり
 としてあまの十方のあとしてしあもあはえ縁は
 うなるんしことてたよ一切の天人を縁は
 くことりあてして縁はあへたてするあ又ま
 世とん感縁とひつる縁ひれ縁は縁は
 まつらあまをうらなむけつるあはらあまあ
 縁うつたまかう縁はあことありうあその時あ
 世の八重とさりりつらつらう大善とあげか
 ちるふ紀とさる事このまのあはらあふふ
 ちうらうなまらるはうらあ縁の縁ひと縁は
 ちあうらん信縁のあまとりあ縁のゆのゆ
 てまこと縁はとくちああ守一切の縁はな



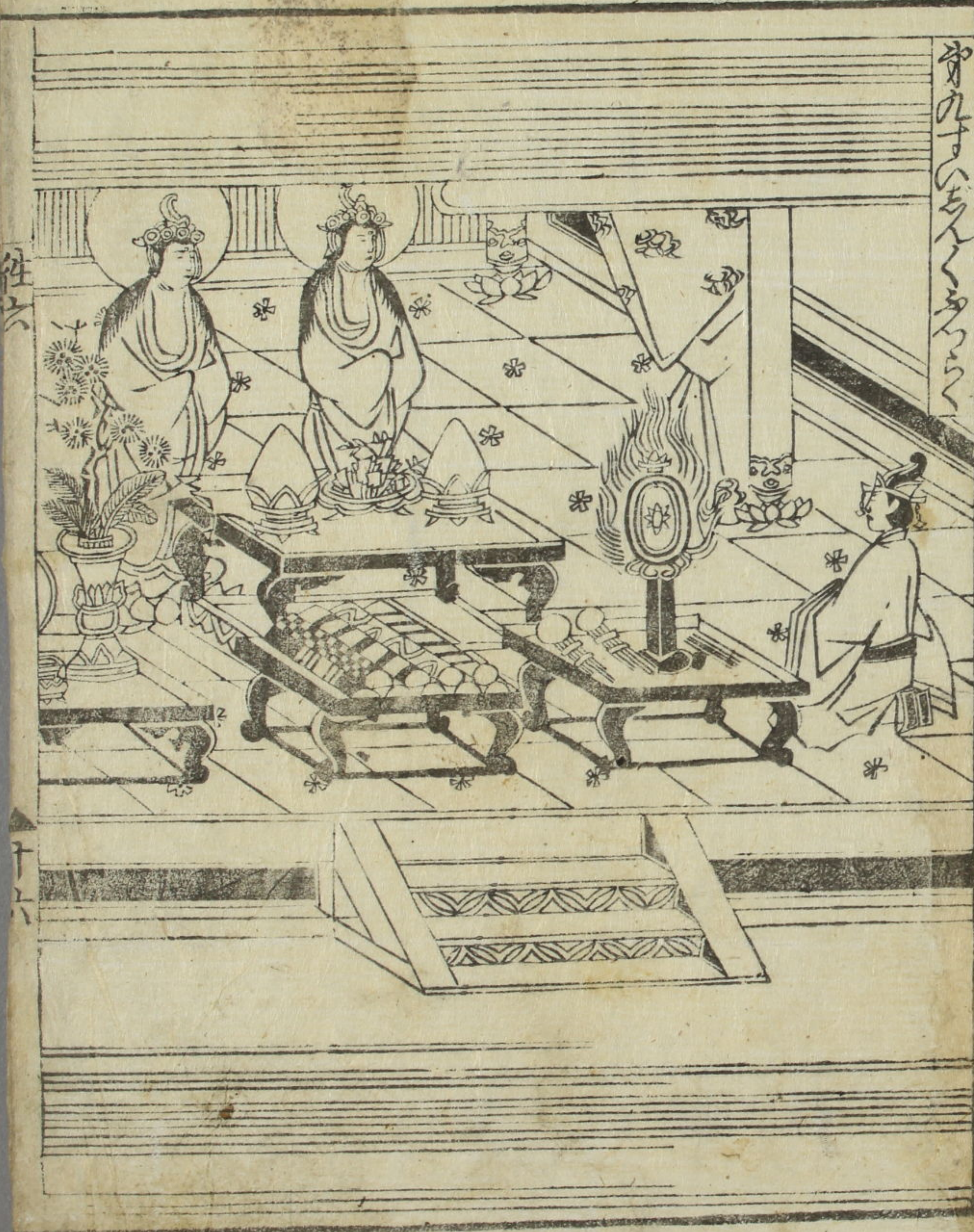
中
之
人
少
の
心
初
く
ら
く

往
六

十
三

ひつひつといふごとくあひねらるるひつひつといひてけり
 ふあつひつとていひあつひつとていひのりハ方々下れ
 罪をぬぐのりくつのがけけし刑罰のあひひふあり
 わりあつひつとていひあつひつとていひのりハ方々下れ
 して徳養と慕殺とていひあつひつとていひのりハ方々下れ
 そあつひつとていひあつひつとていひのりハ方々下れ
 じあつひつとていひあつひつとていひのりハ方々下れ
 やあつひつとていひあつひつとていひのりハ方々下れ
 はあつひつとていひあつひつとていひのりハ方々下れ
 さいとて食時よハハなまよふりて飲食とていひ
 うつひつとていひあつひつとていひのりハ方々下れ
 やあつひつとていひあつひつとていひのりハ方々下れ
 はあつひつとていひあつひつとていひのりハ方々下れ
 さいとて食時よハハなまよふりて飲食とていひ
 うつひつとていひあつひつとていひのりハ方々下れ
 やあつひつとていひあつひつとていひのりハ方々下れ

第九十のちんくつり



性六

十六

十方佛土の如く此の如く...
く一切の菩薩の如く...
賢の如く...
の如く...
あまの如く...
あまの如く...
あまの如く...
あまの如く...

像あるは...
又名...
あまの如く...
あまの如く...
あまの如く...
あまの如く...
あまの如く...
あまの如く...
あまの如く...
あまの如く...
あまの如く...
あまの如く...
あまの如く...
あまの如く...

十 諸を佛道樂の事

